S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)
2009年5月13日

腸チフス・パラチフス

腸チフス・パラチフスは、それぞれ腸チフス菌（*Salmonella* Typhi）とパラチフス A 菌（*Salmonella* Paratyphi A）を起因菌とする代表的な経口感染症の一つで、感染症法では三類感染症として位置づけられています。いずれの菌もヒトに宿主特異性があり、ヒトの糞便で汚染された水や食物を摂取することによって感染します。感染源がヒトに限られるため、国内では衛生水準の向上とともに減少していますが、東南アジアやインド亜大陸などの地域では蔓延しているため、国内には海外旅行者下痢症として持ち込まれることが多いです。

図に過去 5 年間に県内で検出され、衛生研究所で確認できた腸チフス菌とパラチフス A 菌の検出状況を示しました。

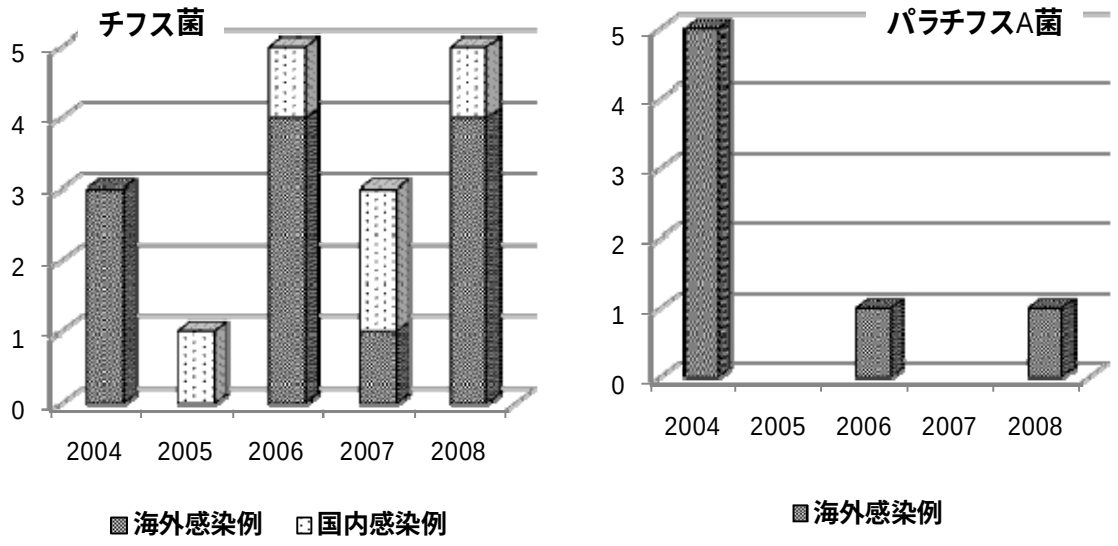

図　埼玉県内の腸チフス菌とパラチフス A 菌検出状況（2004-2008）

県内で報告のあった事例の推定感染地は、チフス菌では、17 例中 12 例が、パラチフス A 菌では全例が海外でした。主要渡航地は、インド亜大陸のインド、ネパール、東南アジアのタイ、インドネシアです。

腸チフス・パラチフスの治療にはニューキノロン系抗菌薬の経口投与が行われます。近年、ニューキノロン低感受性菌がチフス菌・パラチフス A 菌で増加しており、2006 年には県内でインド帰国者からニューキノロン耐性チフス菌が分離されています。耐性のみならず、低感受性菌でも治療が困難である例が多く、今後はその動向に注意する必要があります。